

COP28まもなく開催！ 『気候変動を学ぼう 変化の担い手になるために』出版 今知るべき気候変動の実態、温暖化をくいとめる真の気候変動対策にむけて何をすべきかが丸ごとわかる

合同出版株式会社は『気候変動を学ぼう 変化の担い手になるために』【編】クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン【著】平田仁子、豊田陽介、ギャッチ・エバン、三谷優衣子 を2023年11月22日に出版します。Amazonや楽天ブックス、全国の書店等でお求めいただけます。

暑すぎる日々、ゲリラ豪雨、局地的な豪雪、頻発する突風や竜巻、線状降水帯や台風による水害、水温変化による不漁や天候不順による不作……。気候変動は「将来のいつか、どこかで起きる問題」ではなく、すでにこの地球上で起きています。

気候変動対策に必要な技術はすでにあり、何をしなければならないのかも、わかっていることがあるのです。すぐに効果的な取り組みを進めなければなりません。

本書は、この社会のすべての人の課題である気候変動問題とその対策について、日本のフロントランナーたちが解説した一書です。

- ◎今、世界・日本の気候変動はどうなっている？
- ◎真に有効な気候変動対策や政策・仕組みとは？
- ◎社会全体で取り組むべき具体的な目標とは？
- ◎進行する気候変動問題に対し、私たちに何ができる？

気候変動問題に根本からアプローチするために知っておくべきこと、すでに動き出している人・取り組みがまるごとわかる1冊です。

- 本書の特徴



変えなくてはならない。変えることはできる。 合同出版

私たちは変える

暑すぎる日々、ゲリラ豪雨、局地的な豪雪、頻発する突風や竜巻、線状降水帯や台風による水害、水温変化による不漁や天候不順による不作……。気候変動は「将来のいつか、どこかで起きる問題」ではなく、すでにこの地球上で起きています。気候変動対策に必要な技術はすでにあり、何をしなければならないのかも、わかっていることがあるのです。すぐに効果的な取り組みを進めなければなりません。本書の気候変動対策に向けて、今こそ対話・行動を！



We MUST. We CAN. We WILL CHANGE.

気候変動とはどのような問題か？

気候変動問題は遠い場所ですら起こることではありません。今、目の前にある危機です。気候変動の影響はさまざまな形で現れ、異常気象の勃発は今や日常的な光景になりました。日本でも多くの被害のニュースが聞かれるようになりました。そして気候変動は、さまざまな形で私たちの社会に影響を及ぼします。

気候変動の原因となっているのは私たちの人間活動であり、現在の社会・経済のあり方です。今を生きている私たちが原因者であり、かつ被害者でもあることを認識し、国内外に目を向け、気候変動問題と自分自身のつながりを理解することが問題解決の上で重要です。このまま気候変動が進んだら未来はどうなるのでしょうか？ 本章では、気候変動とはどのような問題で、どのような影響をもたらすのかについて考えてみましょう。

この章で学ぶこと

キーワード

気候変動、気候正義（クライメートジャスティス）、脆弱性、人権、資源、持続可能な開発目標（SDGs）

1 気候変動の影響を受ける私たちの社会

私たちを取り巻く地球環境が変わりつつあることは、みなさんも感じていることでしょう。まず知っておかなければならないのは、気候変動は、人間活動が原因ですら起こっているという現実です。気候変動の問題では、すでに起こり始めている影響を、今後、壊滅的な被害に至るまで悪化させないようにすることが重要な点です。そのために私たちがどう行動するのが重要になります。

また、気候変動は、環境問題の1つとしてみなされがちですが、私たちの社会、経済、健康、生活は、地球環境、地域環境とさまざまな形でつながっています。そのため気候変動が激しく進行すれば、安定した社会、経済、生活、そして多くの場合、私たち自身の健康、安全、安心が大きく脅かされます。すでに影響は顕在化しています。記録史上最も暑い7年はすべて2015年以降に起こっており、とくに高齢者や幼児、長時間屋外で仕事する人ほど熱中症や疲労のリスクが高まりやすい状況を作り出しています。

また、アメリカやオーストラリア地域などでは、近年、暑さの増加による植生の乾燥が原因で、山火事の発件数と深刻度が大幅に増加しています。大人数の人々が避難を余儀なくされ、さらに火災によって近隣の町や生活、地域経済にも被害が及んでいます。

地球の気候の変化は、単に「暑くなる」というだけではありません。自然災害が深刻化かつ多発化し、世界中の地域、コミュニティ、人々の安全・安心が著しく脅かされる「異常気象」も頻繁に起こるようになってきました。日本を含むさまざまな地域で、台風や暴風雨、それに伴う洪水の規模や頻度が著しく増加し、多くの人命が失われ、住宅や地域のインフラや産業に深刻な被害をもたらしています。これらは、気候変動が要因だと科学者に指摘されています。

気候変動が進めば、これらの影響はますます大きくなります。海面上昇によって沿岸のコミュニティは被害を受け、農業や漁業関連ビジネスは作物や

各章の冒頭に、その章の学びのねらいやキーワードがまとめられています。教師、企業・行政の気候変動対策の担当、企画部の担当など、気候変動を学ぶすべての人のための参考になるテキスト。

1 若者が動き出す

たった一人で活動を始め、世界のシステムチェンジを求め続ける

グレタ・トゥーンベリさんとFridays For Future
スウェーデンの気候活動家



2003年生まれのスウェーデンの活動家グレタ・トゥーンベリさんは、2018年、15歳のときに議会に対し気候変動へのより迅速で強力な対策を求める行動を起こしました。たった一人で「気候のための学校ストライキ」を始め、毎週金曜日にこのストライキ、座り込み、看板やリーフレットを活用しながら気候危機を訴えたのです。この活動に賛同した若者たちが国内外で同様の活動を始め、「Fridays For Future(FFF)」が広がっていきました。

翌年の2019年には、世界中の300以上の都市で140万人以上の若者たちがグローバル学校ストライキに参加しました。FFFは気候アクションの代表的な行動の1つになっています。

グレタさんの要求はシンプルで、「科学の声を聴くこと」「個々の行動ではなく、社会システムを変革すること」です。彼女はその後も動力を使わないヨットで大西洋を横断したり、国連の「気候変動枠組条約締約国会議」は結果が伴わない言葉ばかりの空疎な取り組みと批判するなどしています。辛辣な言動がマスコミでも注目されがちですが、各国の気候変動への対策の欠如を批判し、遅滞する各国の対策に対する警鐘は、気候変動という一刻を争う危機に私たちが気づくメッセージになっています。

グレタさんや若者たちは、自国の政治家に気候危機に対する緊急行動を要求し、「#FridaysForFuture」とハッシュタグ（#）を使って、世界中の若者たちに参加を呼びかけました。それ以来、何百万人もの若者が、世界150カ国

以上で何千ものアクションに参加しています。

世界中の都市でFFFグループが立ち上がるにつれ、若者たちは抗議するだけでなく、講演イベント、SNSを通じたデジタルキャンペーン、メディアへの働きかけ、政治家との直接の関わりなど、科学者コミュニティから支援を受けながらも、若者主導の姿勢を崩さず、気候変動に対して緊急に行動を起こすよう、政策を決定する権力者に若者の声を届ける活動をしています。

現在、FFFは世界中100カ国以上で活動しており、多くの国で地域別のFFFグループも数多く存在しています。

日本では、2019年3月に行動がスタートして以来、全国20以上の地域で、学生をはじめとする若者たちがFFFグループを立ち上げています。FFF Japanは、グローバルイベントに連帯しながら、日本独自のキャンペーン、企業への抗議行動、講演イベント、ワークショップ、デジタルSNSキャンペーンを数多く企画しています。FFFは、より多くの若者が、気候変動に対する取り組みに参加するきっかけになっています。



グレタさんの行動に共鳴して日本で活動するFridays For Futureのメンバー（グローバル気候マーチ、2019年）

第8章では、10の先行的な気候変動対策の取り組みを紹介しました（グレタ・トゥーンベリさんとFridays For Future、酒井功雄さん、今井絵里菜さん、小野りりあんさん、能條桃子さん、竹本了悟さん、大池拓磨さん、高橋千広さん、佐々木隆史さん、近藤恵さん）。

3 情報と行動の機会を提供するNGO

日本各地に存在するNGOやNPOは、政府や営利企業とは異なる市民社会の立場から気候変動対策に取り組む組織です。第7章で紹介したように、市民として気候変動対策に取り組む上で、これらの団体と関わることはよいスタートになるでしょう。ここでは主に市民中心の活動に取り組む団体を複数ご紹介しますが、ほかにも多様なミッションに取り組む団体が多数ありますので、ぜひ調べてみましょう。

クライメイト・リアリティ・プロジェクト

<https://climateralityjapan.org/>



クライメイト・リアリティ・プロジェクトは、気候変動対策に取り組む人々の世界的なネットワークです。詳細は巻末の団体紹介をご覧ください。

Climate Action Network

<https://www.can-japan.org/>



Climate Action Network (CAN) は、気候変動問題に取り組む、130カ国以上・1800以上のNGOからなる国際ネットワーク組織です。気候変動に関する情報や対策強化のための戦略を共有し、各国政府やメディアへの働きかけを行うほか、専門的な調査・分析によって国際制度について提言を行い、国際交渉を後押ししてきました。CANは25年間にわたり、気候変動問題の解決を求める世界の市民社会の声を伝え続けています。CANの日本拠点であるCAN-Japanには、2023年7月現在、18団体が加盟しています。これらの加盟団体から、あなたの関心のある団体を見つけるのもよいでしょう。

気候ネットワーク

<https://www.kikonet.org/>



気候ネットワークは、地球温暖化防止のために市民の立場から「提案×発信×行動」する団体です。一人ひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等を含めて社会全体を持続可能に「変える」ために、地球温暖化防止に関わる国際交渉への参加、専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での地球温暖化対策モデルづくり、人材の養成・教育などに取り組んでいます。また、地球温暖化防止のために活動する全国の市民・環境NGO・NPOのネットワークとして、多くの組織・セクターと交流・連携しながら活動を続けています。

WWF

<https://www.wwf.or.jp/>



WWFは約100カ国で活動している環境保全団体です。WWFジャパンは、1971年、世界で16番目のWWFとして東京で設立されました。WWFジャパンは、自然の中に人間が存在するという自然観を取り入れ、日本国内および日本が関係している国際的な問題に取り組みます。生物多様性の保全と再生可能・持続可能な自然資源の利用を推進し、気候変動や環境汚染の問題についても、市民が参加しやすいものから企業や自治体向けのものまで、多くのキャンペーンを実施しています。

市民社会の立場から気候変動対策に取り組むNGOやNPOがまとめられています。よりくわしい情報を得たい時、実際に真の気候変動対策への第一歩を踏み出す時の一助に。

● 執筆者より

平田仁子氏（一般社団法人Climate Integrate）

気候変動を止めたいけど、何ができるのかわからない、という方は少なくありません。本書は、そうした問いに応えるため、気候変動をシステムの問題として捉え、改めて「学ぶ書」「伝える書」として誕生しました。実践の輪を広げる手助けになるならうれしいです。

豊田陽介氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク）

一人一人の努力に任せていても気候の危機を回避することはできません。重要なことは誰もがあたりまえにCO2を出さないことを選択できる社会に転換していくことです。その転換をどうやって起こせばいいのか、本書がそのための手がかりになれば幸いです。

ギャッチ・エバン氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク）

本書では、気候変動が私たちの社会的・経済的福利、さらには基本的人権に与える影響と、最も弱い立場にある人々を守りながらより豊かで公正な社会を推進するために、システムの改善が必要であることをお伝えできればと思います。

三谷優衣子氏（クライメイト・リアリティ・プロジェクト・ジャパン）

日本に住む私たちも気候変動の影響を直接受ける事が増えました。問題の大きさに諦めたり絶望せずに、私たちにできることがたくさんあるということがこの本の重要なメッセージです。一つの正解があるわけではなく、色々なアプローチを一緒に考え取り組むきっかけとなればと思います。

● この本で学べるキーワード

#気候変動 #気候正義（クライメートジャスティス） #脆弱性 #人権 #貧困 #持続可能な開発目標（SDGs） #温室効果ガス #気候変動に関する政府間パネル（IPCC） #パリ協定 #削減目標 #1.5℃ #カーボンバジェット #共通だが差異ある責任 #緩和 #適応 #省エネルギー #エネルギー効率化 #再生可能エネルギー #インセンティブ #規制 #エネルギー自立 #地域活性化 #二酸化炭素（CO2） #産業構造 #エネルギー供給構造 #削減可能性 #エネルギー基本計画 #GX（グリーントランスフォーメーション） #イノベーション #カーボンプライシング #炭素税 #キャップ&トレード型排出量取引制度 #非国家主体 #情報公開 #サプライチェーン #ESG投資 #ダイベストメント #脱炭素経営 #NGO #社会変革 #システムチェンジ #市民活動 #選挙 #アクション #キャリア

• 目次

まえがき

第1章 気候変動と私たちの社会の関わり

第2章 深刻化する気候変動に対する私たちの責任

第3章 気候変動を防ぎ、影響を緩和するためにできること

第4章 日本の温室効果ガスの排出の特徴と削減の可能性

第5章 日本の気候変動対策はどこまで進んでいるのか

第6章 多様な主体のさまざまな取り組み—自治体・企業・大学・若者・NGO

第7章 持続可能な社会の姿と私たちにできること

第8章 脱炭素社会に向けて動き出した人々

• 書誌情報

『気候変動を学ぼう 変化の担い手になるために』

<https://www.godo-shuppan.co.jp/book/b636115.html>

【編】

クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン

2011年、アル・ゴア元米副大統領が立ち上げた2つのグループを統合するかたちで設立。世界190カ国・地域におよぶ気候変動対策に取り組む人々のネットワーク。気候変動に関するトレーニングを受けたボランティアが、ビジネス・政府や自治体・教育・ユース等の様々なセクターや立場から、正しい知識を広め、気候アクションを実行している。<https://climaterealityjapan.org>

【著】

平田仁子（一般社団法人 Climate Integrate 代表理事）

豊田陽介（特定非営利活動法人 気候ネットワーク 上席研究員）

ギャッチ・エバン（特定非営利活動法人 気候ネットワーク プログラム・コーディネーター）

三谷優衣子（クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン プログラム・マネージャー）

□定価=本体1,800+税

□A5/136ページ

□ISBNコード : 978-4-7726-1541-9

□Amazon

<https://amzn.asia/d/40LGSop>

□楽天ブックス

<https://books.rakuten.co.jp/search?sv=30&v=2&oid=000&f=A&g=001&p=0&s=0&e=0&item=9784772615419>

合同出版株式会社のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/85859

※書評等で献本をご希望の方は、合同出版 寺島までお問合せをお願いいたします。

合同出版株式会社 営業プロモート部 寺島紗月

電話 : 042-401-2932 FAX : 042-401-2931

メールアドレス : terashima_s@godo-shuppan.co.jp
